

テモテ第一 5 : 1-16

「教会家族の敬虔な暮らしと困窮者への援助」

- 5:1 年寄りをしかってはいけません。むしろ、父親に対するように勧めなさい。若い人たちには兄弟に対するように、
- 5:2 年とった婦人たちには母親に対するように、若い女たちには真に混じりけのない心で姉妹に対するように勧めなさい。
- 5:3 やもめの中でもほんとうのやもめを敬いなさい。
- 5:4 しかし、もし、やもめに子どもか孫かがいるなら、まずこれらの者に、自分の家の者に敬愛を示し、親の恩に報いる習慣をつけさせなさい。それが神に喜ばれることです。
- 5:5 ほんとうのやもめで、身寄りのない人は、望みを神に置いて、昼も夜も絶えず神に願いと祈りをささげていますが、
- 5:6 自堕落な生活をしているやもめは、生きてはいても、もう死んだ者なのです。
- 5:7 彼女たちがそしりを受けることのないように、これらのことを命じなさい。
- 5:8 もしも親族、ことに自分の家族を顧みない人がいるなら、その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪いのです。
- 5:9 やもめとして名簿に載せるのは、六十歳未満の人でなく、ひとりの夫の妻であった人で、
- 5:10 良い行いによって認められている人、すなわち、子どもを育て、旅人をもてなし、聖徒の足を洗い、困っている人を助け、すべての良いわざに務め励んだ人としなさい。
- 5:11 若いやもめは断りなさい。というのは、彼女たちは、キリストにそむいて情欲に引かれると、結婚したが、
- 5:12 初めの誓いを捨てたという非難を受けることになるからです。
- 5:13 そのうえ、怠けて、家々を遊び歩くことを覚え、ただ怠けるだけでなく、うわさ話やおせっかいをして、話してはいけないことまで話します。
- 5:14 ですから、私が願うのは、若いやもめは結婚し、子どもを産み、家庭を治め、反対者にそしる機会を与えないことです。
- 5:15 というのは、すでに、道を踏みはずし、サタンのあとについて行った者があるからです。
- 5:16 もし信者である婦人の身内にやもめがいたら、その人がそのやもめを助け、教会には負担をかけないようにしなさい。そうすれば、教会はほんとうのやもめを助けることができます。

はじめに

パウロからテモテへの手紙の中心部分は先週までの学びで終わりました。

パウロは引き続きテモテに指導をしています。その教えはおもに教会家族に関する内容です。教会家族の評判が、この部分のテーマです。

とくに 5 章 7,8,14 節でそれが強調されています。

この箇所がおもに伝えようとしているのは、教会家族が分別とあわれみをもって行動し、本当に困っている人たちを援助するべきである、ということです。

この箇所を学ぶ上で、答えなければならない 3 つの大切な問いがあります。

1. クリスマンとして老いた親の世話をするのはどれほど重要か。
 2. 家庭や教会で敬虔な暮らしをどこまで守るか。
 3. 教会にとって困窮者に対してあわれみだけでなく分別をもって行動することがどれほど重要か。
- 今日の聖書箇所を学ぶと、その答えがわかってくるでしょう。

今日は、ふたつに分けて学びを進めます。

前半は 5 : 1-2 です。

ここは、教会員同士が家族のように接することを勧めています。

後半は 5 : 3-16 で、教会家族が困窮した教会員のお世話をする必要性に焦点を絞っています。

1. 教会員同士は家族のように接する必要がある。(5 : 1-2)

1-2 節を理解するには、マルコ 3 : 31-35 に記されたイエスの教えを思い起こす必要があります。

マルコ 3 : 31-35

3:31 さて、イエスの母と兄弟たちが来て、外に立っていて、人をやり、イエスを呼ばせた。
3:32 大ぜいの人がイエスを囲んですわっていたが、「ご覧なさい。あなたのお母さんと兄弟たちが、外であなたをたずねています」と言った。
3:33 すると、イエスは彼らに答えて言われた。「わたしの母とはだれのことですか。また、兄弟たちとはだれのことですか。」
3:34 そして、自分の回りにすわっている人たちを見回して言われた。「ご覧なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。
3:35 神のみこころを行う人はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。」

イエスはここで、誰でも神のみこころを行う人はイエスの母であり、兄弟姉妹だと明言しておられます。

また、新約聖書には、教会を家族にたとえる個所があります。

エペソ 2 : 19

2:19 こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。

ガラテヤ 6 : 10

6:10 ですから、私たちは、機会のあるたびに、すべての人に対して、特に信仰の家族の人たちに善を行いましょう。

「家族」という言葉は、親しみ、配慮、開放感、愛などを物語ります。パウロは、この教えをさらに深め、教会員はお互いとのかかわりの中で家族のように接するべきだと示します。つまり、教会の交わりの中にいるクリスチャンは、肉親と関わるのと同じくらい特別な気持ちでお互い接し合うべきだということです。テモテは、エペソの霊の家族に属していました。そこには、偽教師という問題がありました。このことで教会家族が動揺し、人間関係にひびが入るなど問題が生じました。パウロがここで人間関係についてこのように勧めているのは、おそらく信徒間に問題があったからでしょう。

1 節で「しかる」と訳された単語は、原語のギリシャ語では非常に強い意味合いがあります。辛辣で乱暴な叱責を指します。

この単語が新約聖書で用いられているのはここだけです。

この単語は、教会家族全体における接し方にかかわります。

つまり、私たちは兄弟姉妹に対して辛辣で乱暴なやり方で対決してはいけません。

偽りの教えが出てきたり、神のみことばに明らかに背いていたりしても、じゅうぶんな配慮をもって当事者と話すべきです。

偽りの教えを指摘することも、神のみことばに明らかに背いている人にその事実を告げることとも間違っではありません。

けれども、そのやりかたが大事です。それが、パウロがテモテに教えていることです。

若い人が年長者に間違いを指摘するのは簡単ではありません。とくに日本の文化ではそうです。

しかし、ダニエルという若者の人生を手本にすることができます。

ダニエル 4 : 27

4:27 それゆえ、王さま、私の勧告を快く受け入れて、正しい行いによってあなたの罪を除き、貧しい者をあわれんであなたの咎を除いてください。そうすれば、あなたの繁栄は長く続くでしょう。」

ダニエルは、王に対する敬意を示しつつ、罪を指摘する点については妥協しませんでした。パウロは年長の男性への接し方の次に、若い男性への接し方について教えます。

若い男性には、兄弟のように接するべきです。

パウロはここで、同年代の若い人たちについて語っているようです。

現代の私たちに置き換えるなら、20-30代の人たちと言えるでしょう。

誰かのことを本当に兄弟だと思えば、優越感とか「上から目線」という考えは浮かんでこないでしょう。

旧約聖書で、イスラエルの民は兄弟を憎むことを禁じられています。

レビ記 19 : 17

19:17 心の中であなたの身内の者を憎んではならない。あなたの隣人をねんごろに戒めなければならぬ。そうすれば、彼のために罪を負うことはない。

ヨセフは、彼にひどい仕打ちをした兄弟に対してこのような愛と謙虚さを示しました。

創世記 50 : 15-21

50:15 ヨセフの兄弟たちが、彼らの父が死んだのを見たとき、彼らは、「ヨセフはわれわれを恨んで、われわれが彼に犯したすべての悪の仕返しをするかもしれない」と言った。

50:16 そこで彼らはことづけしてヨセフに言った。「あなたの父は死ぬ前に命じて言われました。

50:17 『ヨセフにこう言いなさい。あなたの兄弟たちは実に、あなたに悪いことをしたが、どうか、あなたの兄弟たちのそむきと彼らの罪を赦してやりなさい、と。』今、どうか、あなたの父の神のしもべたちのそむきを赦してください。」ヨセフは彼らのこのことばを聞いて泣いた。

50:18 彼の兄弟たちも来て、彼の前にひれ伏して言った。「私たちはあなたの奴隷です。」

50:19 ヨセフは彼らに言った。「恐れることはありません。どうして、私が神の代わりでしょうか。

50:20 あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。それはきょうのようにして、多くの人々を生かしておくためでした。

50:21 ですから、もう恐れることはありません。私は、あなたがたや、あなたがたの子どもたちを養いましょう。」こうして彼は彼らを慰め、優しく語りかけた。

ペテロは信徒に兄弟を愛するようにとペテロ第一 2 : 17 で教えます。

けれども、愛しているからと言って、罪を指摘するのをやめるべきではありません。

イエスは、兄弟が罪を犯すならそれを指摘するようにと教えておられます。

マタイ 18 : 15

18:15 また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。

ルカ 17 : 3

17:3 気をつけていなさい。もし兄弟が罪を犯したなら、彼を戒めなさい。そして悔い改めれば、赦しなさい。

ただし、そうやって指摘した相手が全員その指摘を受け入れて正すとは限りません。私たちはそのことを知っておくべきです。

愛をもって相手に話す場合でも、罪を指摘するのは容易いことではありません。

テサロニケ第二 3 : 14-15 は、そのような状況でどうすべきかを教えてください。

テサロニケ第二 3 : 14-15

3:14 もし、この手紙に書いた私たちの指示に従わない者があれば、そのような人には、特に注意を払い、交際しないようにしなさい。彼が恥じ入るようになるためです。

3:15 しかし、その人を敵とはみなさず、兄弟として戒めなさい。

パウロはさらに、女性が他の女性にどう話すべきかを教えています。

年長の女性は母親のように扱うべきです。

聖書は、母親を敬うように命じます。出エジプト記 20 : 12 は、「あなたの父と母を敬え。あなたの神、【主】が与えようとしておられる地で、あなたの年齢が長くなるためである。」と語ります。

また箴言 1 : 8 は、母の教えを捨ててはならないと教えます。

パウロは、年長者の女性が正されなくてはならない場合にどう接するべきか、その手本を示してくれます。

ピリピ 4 : 1-3

4:1 そういうわけですから、私の愛し慕う兄弟たち、私の喜び、冠よ。どうか、このように主にあってしっかりと立ってください。私の愛する人たち。

4:2 ユウオデヤに勧め、ストケに勧めます。あなたがたは、主にあって一致してください。

4:3 ほんとうに、真の協力者よ。あなたにも頼みます。彼女たちを助けてやってください。この人たちは、いのちの書に名のしるされているクレメンスや、そのほかの私の同労者たちとともに、福音を広めることで私に協力して戦ったのです。

このふたりの年長女性の間意見の相違がありましたが、パウロはふたりの主にある奉仕を褒めました。

最後に、パウロは若い女性について語り、この部分を締めくくります。

これは、ここ OIC にいる若者全員に当てはまる大切な教えです。

性的にきよくあることは大きな課題ですが、とくに若い女性と関わる場合にそうです。

テモテに、若い女性を姉妹のように扱いなさいと命じたパウロは、テモテが若い女性とかかわるときに性欲に負けたり不適切な行為をしたりしないように守ろうとしています。

もちろん若い女性が罪を犯した場合、その事実を指摘される必要があります。可能な限り、それは女性がすべきです。

しかし、女性がそうできない場合は、男性が他の女性と一しょに行かなくてはなりません。とくに、牧師が女性を訪ねる場合がそうです。

2. 教会家族は、生活に困った寡婦にどう接するべきでしょう。(5 : 3-16)

この箇所には、多くの知恵が記されています。これらは当然、当時の寡婦の扱いに当てはまりますが、生活に困窮した教会員に対する経済的援助全般に適用できる原則も含まれています。

これらの原則は、牧師や教会指導者が支援の方法を決める際に重要です。

パウロは、教会の支援を受けるべき本当の寡婦を見極める方法について明確に教えています。そして、若い寡婦への助言も記しています。

a) 寡婦はまず、肉親が支えるべきである。(4 節)

パウロは、夫を亡くした母親や祖母を養う義務がクリスチャンの子どもや孫にあると指摘します。

養ってもらえるクリスチャンの家族がいる寡婦は、教会から経済的援助を受けるべきではありません。

パウロは 8 節で、夫を亡くした親や祖父母を養わない人々を厳しく非難します。

5:8 もしも親族、ことに自分の家族を顧みない人がいるなら、その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪いのです。

b) 援助を受けるべき本当の寡婦かどうか、いくつかの原則に照らしてしっかり調査すべきである。(5,9,10 節)

寡婦は、援助を受けるには「60 歳以上」でなくてはなりませんでした。

また、「ひとりの夫の妻」でなくてはなりませんでした。これは、婚姻歴とは関係ありません。ギリシャ語を文字通り訳すと、「ひとりの男の人の女の人の」となります。

これは、3 章 2,12 節と同じです。

パウロは 14 節で、若い寡婦に再婚を勧めています。

ですから、「ひとりの夫の妻」というのは、結婚の貞節を守った夫一筋の女性という意味です。結婚生活の模範的人物です。

援助にふさわしい本当の寡婦は、「良い行いによって認められている人」でなくてはなりませんでした。

その良い行いとは、教会内での働きを指します。

エペソ 2 : 10

2:10 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。

その働きの一例がこの個所に記されています。

「旅人をもてなし」た人。

「聖徒の足を洗」った人。これは、使用人がするような卑しい仕事を指します。

当時、人々はサンダルのような履物を履いていたので、足は土やほこりでとても汚れていました。

人が誰かの家に客として招かれると、まずその家で足を洗ってもらいます。これは大きな家では使用人の仕事でしたが、小さな家では妻がそれをしなくてはなりませんでした。

寡婦はまた、「困っている人を助け」ました。

英語の新欽定訳では、「苦しむ人を解放した」とあります。

ギリシャ語では、「ストレスやプレッシャーのもとにある人」となっています。

現代なら、心身を病んでいる人、病院や施設にいる人たちでしょう。

最後にパウロは、寡婦が「すべての良いわざに務め励んだ人」でなければならないとまとめます。

ギリシャ語では、「自身をささげた」という意味です。

パウロはこのように、教会の援助を受けるにふさわしい寡婦について詳しく明確に書き記しました。

3. 教会内の若い寡婦へのパウロの助言 (11-15 節)

14 節で、パウロは若い寡婦に可能であれば再婚・出産するように勧めます。

これは、彼女たちの信仰生活を守り、サタンのえじきにならないためです。

若い寡婦の中で、すでに信仰を離れて、うわさ話やおせっかいをしていた者がいるとあります。なぜパウロが若い寡婦に再婚を強く勧めるのか、皆さんは理解しがたいと思われるかもしれません。

神にささげきって、サタンのえじきにならない寡婦もいるわけですから。

そういう女性は、非常に忠実な寡婦です。

では、11-12 節を改めて読んでみましょう。

5:11 若いやもめは断りなさい。というのは、彼女たちは、キリストにそむいて情欲に引かれると、結婚したがら、

5:12 初めの誓いを捨てたという非難を受けることになるからです。

さらに、民数記 30 : 1-16 を読みましょう。

民数記 30 : 1-16

30:1 モーセはイスラエル人の部族の一族のかしらたちに告げて言った。「これは【主】が命じられたことである。

30:2 人がもし、【主】に誓願をし、あるいは、物断ちをしようと誓いをするなら、そのことを破ってはならない。すべて自分の口から出たとおりのことを実行しなければならない。

30:3 もし女がまだ婚約していないおとめで、父の家において【主】に誓願をし、あるいは物断ちをする場合、

30:4 その父が彼女の誓願、あるいは、物断ちを聞いて、その父が彼女に何も言わなければ、彼女のすべての誓願は有効となる。彼女の物断ちもすべて、有効としなければならない。

30:5 もし父がそれを聞いた日に彼女にそれを禁じるなら、彼女の誓願、または、物断ちはすべて無効としなければならない。彼女の父が彼女に禁じるのであるから、【主】は彼女を赦される。

30:6 もし彼女が、自分の誓願、あるいは、物断ちをするのに無思慮に言ったことが、まだその身にかかっているうちにとつぐ場合、

30:7 夫がそれを聞き、聞いた日に彼女に何も言わなければ、彼女の誓願は有効である。彼女の物断ちも有効でなければならない。

30:8 もし彼女の夫がそれを聞いた日に彼女に禁じるなら、彼は、彼女がかけている誓願や、物断ちをするのに無思慮に言ったことを破棄することになる。そして【主】は彼女を赦される。

30:9 やもめや離婚された女の誓願で、物断ちをするものはすべて有効としなければならない。

30:10 もし女が夫の家で誓願をし、あるいは、誓って物断ちをする場合、

30:11 夫がそれを聞いて、彼女に何も言わず、しかも彼女に禁じないならば、彼女の誓願はすべて有効となる。彼女の物断ちもすべて有効としなければならない。

30:12 もし夫が、そのことを聞いた日にそれらを破棄してしまうなら、その誓願も、物断ちも、彼女の口から出たすべてのことは無効としなければならない。彼女の夫がそれを破棄したので、【主】は彼女を赦される。

30:13 すべての誓願も、身を戒めるための物断ちの誓いもみな、彼女の夫がそれを有効にすることができ、彼女の夫がそれを破棄することができる。

30:14 もし夫が日々、その妻に全く何も言わなければ、夫は彼女のすべての誓願、あるいは、すべての物断ちを有効にする。彼がそれを聞いた日に彼女に何も言わなかったので、彼はそれを有効にしたのである。

30:15 もし夫がそれを聞いて後、それを破棄してしまうなら、夫が彼女の咎を負う。」

30:16 以上は【主】がモーセに命じられたおきてであって、夫とその妻、父と父の家にいるまだ婚約していないその娘との間に関するものである。

パウロがここで心配しているのは、若い寡婦が夫の死後、主に仕えることに献身すると誓うことです。

それはりっぱなことですが、よく考えずに軽率に誓ってしまう場合があるかもしれません。その後、素敵な男性と出会ってしまったら、誓いよりも男性に対する思いが勝ってしまうかもしれません。

そうなると、その若い寡婦は難しい立場に立たされることになります。自分自身にとっても、信徒同士の間でも良い証となりません。

ですから、パウロが強く再婚を勧めるのも、そういう状況下では良い助言なわけです。

パウロの結論 (16 節)

パウロは、寡婦となった母や祖母の面倒を見るのは信徒の責任であると繰り返し、自身の見解をまとめています。

もし教会員がこの教えに従うなら、教会は、本当に困っていて援助の必要な寡婦を助けることができます。

今日の個所から、実生活への適用と現代にも適用できる原則はなんでしょう。

1. OICの教会家族内における互いへの接し方はとても大切です。

年長者の教会員に対しては、男女を問わずに敬意を示す必要があります。

これは、家族の中で年長者に敬意を払うべきであるのと同じです。

けれども、年長者の教会員が神の明確な教えに背き、罪を犯していたなら、そういう場合は罪を指摘しないで妥協するのはいけません。

とは言え、罪を指摘する際は、思いやりと品格をもって向き合うべきです。

2. 寡婦をはじめ教会内の人々への定期的な経済援助は、聖書の教える原則に則ってしっかり見極め、取り決めるべきです。

ずいぶん昔のことですが、英国でまだ失業保険や生活保護がなかった時代、教会家族の中で援助を受ける資格のある人について厳しい規定がありました。

現代では状況は少し違いますが、同じ配慮と判断力が適用されなくてはなりません。

適用できる大原則は、クリスチャンが世間への証として、自分自身の家族を養うべきだということ。パウロは、そうしないクリスチャンを厳しく非難します。

テモテ第一 5:8

5:8 もしも親族、ことに自分の家族を顧みない人がいるなら、その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪いのです。

国の状態はその国にいる高齢者と社会的弱者の扱い方を見ればわかる、と言った人がいます。

私たちが神の良い証人となれるよう、神が助けてくださいますように。

互いへの接し方や、助けを本当に必要としている人たちへの援助の仕方をおして、私たちが良い証を示すことができますように。